



■守谷慶友病院
〒302-0118 茨城県守谷市立沢 980-1
TEL:0297-45-3311 FAX:0297-45-4541



■ひがしクリニック慶友
〒302-0108 茨城県守谷市松並 1630-1
TEL:0297-48-6001 FAX:0297-45-3450



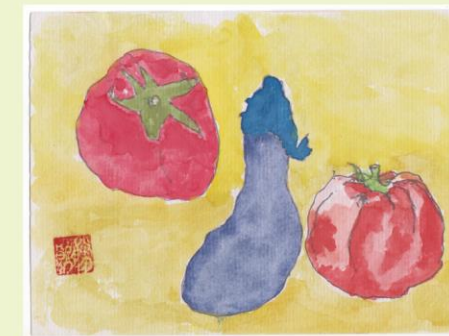
■伊奈クリニック
〒300-2307 茨城県つくばみらい市板橋 2243-1
TEL:0297-20-7755 FAX:0297-58-5507

病院概要

- 病床数
178床
(一般病床 74床 / 地域包括ケア病床 46床 / 障害者病床 58床)
- 併設施設
つくば血管センター・パーチャー病研究所・つくし保育園
人工透析 40床
- 設置医療機器
クラス 1000 手術室、脳外科手術用顕微鏡、鏡視下手術機器（外科、呼吸器外科手術）、泌尿器科手術用レーザー（尿路系結石破碎、前立腺切除）、ELVeS レーザー 1470（下肢静脈瘤治療）、MRI、CT、CTガイドデバイスTARG（ラジオ波）、マンモグラフィ、マンモトーム、ESWL（体外衝撃波結石破碎装置）等
- 診療科目
【守谷慶友病院】
総合診療科・内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科
糖尿病内科・神経内科・外科・脳神経外科・血管外科・乳腺外科
泌尿器科・呼吸器外科・禁煙外来・肛門外科
- 【ひがしクリニック慶友】
総合診療科・糖尿病内科・泌尿器科
- 【伊奈クリニック】
内科・小児科

関連施設

施設名	住所	電話番号
介護老人保健施設 ダ・ジャーレモリヤ	守谷慶友病院内	TEL：0297-20-6616
居宅介護支援事業所 サンタ	ひがしクリニック慶友内	TEL：0297-46-0404
在宅介護支援センター わたぼうし	ひがしクリニック慶友内	TEL：0297-46-2002
看護ステーション たんぼぼ	ひがしクリニック慶友内	TEL：0297-45-3540
訪問介護事業所 コスモス	ひがしクリニック慶友内	TEL：0297-45-8222
通所リハビリテーション ダ・ジャーレモリヤ	ひがしクリニック慶友内	TEL：0297-45-7733
短期入所療養介護 ダ・ヴィンチ	ひがしクリニック慶友内	TEL：0297-48-6002
健康増進施設 K-FIT.	ひがしクリニック慶友内	TEL：0297-21-9277
通所介護事業所 ピー・ディ・ジェイ伊奈	伊奈クリニック内	TEL：0297-20-7272
居宅介護支援事業所 ピー・ディ・ジェイ伊奈	伊奈クリニック内	TEL：0297-47-6078
サービス付き高齢者向け住宅 はうすステーション ゆめみの	〒302-0033 取手市米ノ井 165-1	TEL：0297-86-6070
居宅介護支援事業所 ゆめみの	はうすステーションゆめみの内	TEL：0297-86-6073



榛名山は、火口中央に榛名富士（1396.3m）があり、榛名湖があり、その周りに外輪山が点在する。裾野には、階段で有名な伊香保温泉がある。千年以上前に発見され、いまでも健在な温泉である。金の湯と銀の湯があって有馬温泉と似ている。温泉の最上部に伊香保神社があり、司馬遼太郎「北斗の人」（角川文庫 ¥780）では最重要な神社である。北辰一刀流と馬庭念流の対決を描いたこの小説は、神社への奉納額を巡って千葉周作が榛名山周辺を動き回る。妙見菩薩を本尊とする北斗七星と、自らを信じる自信が日本最大の武道集団を作り上げる。黒富士と名付けてみた榛名富士に、七つ星を埋め込んでみた。

(絵・文 岩井 武尚)

御挨拶

守谷慶友病院副院長 稲葉 泉



この度、平成 28 年 4 月 1 日付けにて、脳神経外科部長 稲葉泉が医療法人慶友会 守谷慶友病院 副院長に、前任の小林徳朗に替わり就任いたしました。台頭報告させていただきます。

当法人開設 28 年来、理事長 石井慶太の地域への思いとして“脳卒中体制の脆弱さ”がありました。かくして 2014 年 6 月小生の就任により脳神経外科の標榜に至り、同 9 月 15 日未破裂脳動脈瘤手術の第一歩を踏み出しました。以降、地域に根づく脳神経外科医療を目指し、日々の診療と共に市民の予防医学的意識向上を目的に公開講座を開設し、地域での役割を果たすべく邁進しております。守谷慶友病院副院長職は甚だ重責、大役ではありますが、院長 今村明をサポートし、当法人の理念である“生命に対する畏怖の念を忘れること無く、医療・看護・介護 を実践する”所存です。甚だ浅学薄才では御座いますが、生涯医師であり続けるべく、事上磨錬を座右として精進して参ります。向後、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

“地域包括ケア病棟”開設にあたって

地域包括ケアシステムをご存知ですか？これは「住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを最期まで続けられる社会の実現!!」に向け国が推進している構想です。地域により高齢化の進展状況には大きな格差があり、地域の特性に合わせた体制づくりが必要です。守谷市の高齢化率をみると約 14%と全国平均 23%よりも大幅に下回っています。しかし、今後の高齢者増加に向けた準備は今から必要です。当院は本年 5 月からの地域包括ケア病棟を増設 46 床に踏切りました。リハビリや自宅退院の準備をするための病棟で、医師、看護師のみならず、リハビリ理学療法士、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなどが、地域の医療・介護担当者と連携し安心して地域で生活ができるようサポートする役割を担います。

守谷慶友病院は、これまで以上に地域で暮らす皆さまにとって、治療のみならず予防やリハビリ、療養の相談まで地域包括ケア病棟を活用し幅広く頼って頂ける病院を目指して行きます。

これまでの暮らし、そしてこれからは見据えてかかわる地域包括ケア病棟

副看護部長 兼 西 3 階病棟看護師長 石塚幸子



慢性疾患の増加、高齢者人口の増加は、病気や障害を持ちながら暮らす高齢者が今後ますます、増加していくことを示しています。医療においても、病気の原因を追究し病気を治す、治癒することを目的としてきた「治療医学」から病気と共存しながら QOL の維持、向上を目指す医療へと変化しています。

当院では、西 3 階病棟が 5 月 1 日より地域包括ケア病棟としてオープンされました。

患者さんは、病気や障害を持つ人である以前に、家族や職場、地域のなかでの役割をもつ生活者の一人です。住み慣れた自宅に帰れば、なじんだ部屋、いつもの御近所、見慣れた風景があります。地域包括病棟は、患者さんとその家族が望んだ、生活の場へ少しでも QOL を維持しながら戻れることを目標にしています。一番に患者さんの声を聞くことができるのは、私達病棟の看護師です。その声に耳を傾けながら、医師、リハビリ、外来看護師、MSW といった院内の多職種と連携を取りながら患者さん、家族が望んだ生活の場へ帰ることを御手伝いさせていただきます。また、少しでも長く在宅での生活を送っていただけるよう地域での多職種との情報交換や連携に取り組んでいきたいと思っております。



下肢救済への取り組みについて

つば血管センター 久米 博子

透析、特に糖尿病の方々は神経障害や末梢血流障害が知らず知らずの間に進行し、気が付けば潰瘍化、さらには感染、そして下肢切断という転帰が残念ながら多くあります。当センターでは 2007 年の開設以来、下肢救済を目指し、毎年確実に成果を上げております。当院の診療から治療の流れをシリーズでご紹介します。

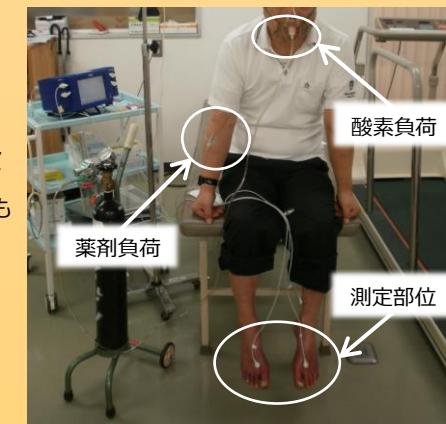
血流評価

ABI (足関節上腕血圧比) が 0.9 以下、TBI (足趾上腕血圧比) が 0.6 以下の場合、SPP (皮膚組織灌流圧) tcpO₂ (経皮酸素分圧) による局所微小循環の評価を行います。

tcpO₂ 測定は微小循環状態を直接評価する方法です。圧や容積による評価とは異なり、tcpO₂ は皮膚組織に実際に供給される酸素量を示します。また、tcpO₂ は血圧変化や薬剤負荷などの誘発刺激にも反応します。tcpO₂ が 30mmHg 以下の場合、血行再建が必要です。

血流評価で異常を認めない場合、血行再建の必要はありません。感染の除去や、他の疾患のスクリーニングを行い、当院の糖尿病、神経内科、整形外科の専門医と提携し、治療を進めます。

今回は当院での手術前後の例をご紹介しながら、バイパス術を用いた血行再建についてご説明いたします。



部署紹介 ～リハビリテーション科～

リハビリテーション科は、理学療法士 11 人(パート 1 人)、作業療法士 6 人(パート人)、助手 1 人(パート)のメンバーで、入院リハ、外来リハ、通所リハ、老健リハを担い、今後訪問リハの設置を予定しており、急性期から生活期まで包括したリハビリの提供を目指しています。

心臓リハビリテーション指導士、糖尿病療養指導士、側弯症治療国際認定、組織間リリース国際認定(癒着剥離)、離床インストラクター、地域包括ケア推進リーダー、摂食学会認定士、呼吸療法認定士等の上級資格を取得しているスタッフもいるため、様々な専門性の高い治療が提供できます。

「しびれ」についての市民公開講座を行ったり、付属の健康増進施設 **K-FIT** での月例講習会を行うなど、今後も継続して公開講座などで専門性を活かした講座を開催予定ですので、ぜひご参加ください。



「検査の効用」

ずっと以前、何時ごろかはわかりませんが、「あの医者に行くと検査ばかりされる。」等々検査の多い医者に対して侮蔑的な態度が取られていた時代があったのは事実だと思います。けれども、どうやら最近の様相が一変したようです。明らかに unnecessary な検査を求められるのもしばしばです。多分、医者への信用が失墜しているためだと思いますが、安心感を得るためだけの検査の効用が多くなっているのではないと思う今日この頃です。

今村 明

